

古川なおき レポート

第105号



自由民主党横浜市議員 古川なおきの政務調査報告

一月刊 2011年7月1日

※1 モバイル社会の子育て

少しずつ暑い日が多くなってまいりましたが、お元気にお過ごしでしょうか。被災地の復興、原発の処理が遅々として進まないことや国会の混乱が気になります。

さて、先日、横浜市立南高校の近藤昭一校長先生の著書「モバイル社会を生きる子どもたち」を拝読させていただきました。昨今の携帯電話やインターネットの普及が子どもたちにどのような影響を与えているか、ネット社会の中での子育てをどうすればいいのか、横浜市の中学校教師としての現場や実体験に基づいて的確に処方箋を示された画期的な本でしたので、私の感想とともに皆様にご紹介させていただきます。

●普及する携帯電話

平成7年に1千万件だった携帯電話の契約数は、平成22年に1億2千万件を超えています（2面表①総務省「携帯電話・PHS 加入契約数の推移」）。文部科学省の調査によれば、小学生の25%、中学生の46%、高校生の96%がインターネットに接続可能な携帯電話を持っているそうです。「出会い系サイト」をはじめ、※2「プロフ」※3「ブログ」「ゲームサイト」などへの書き込みによって犯罪被害が発生するケースが増加しています。私は、携帯電話など子どもには持たせなければいいと単純に思っていました。その利便性の高さや全国民に行き渡るほどの普及を見せている社会状況を考えれば、そう簡単にはいかない問題だと言えます。

思春期になると子どもたちは、自己の確立や人とのつながりを求め、ケータイのネット上でも自己を表現し、友達とコミュニケーションすることも多くなる実態が報告されています。こうしたことは、人とのつながりを強く求める時期にある成長途中の子どもにとってみれば、自然な流れでもあります。問題は買い与えている親を含め大人がこうした実態を知らないということだと思います。闇雲に禁止するよりも大人が実態を知って適切に使用させる指導力を持つことが大切だとこの本は述べています。もちろん、子どもの状況によっては携帯電話を持たせないことも各家庭の判断としてはあっていい考えだと思います。

携帯電話を買い与えても IT 機器が苦手な親も多いため、自分の子どもがどのように携帯電話を使っているか把握していないことも多く、ネットの「閉鎖性」「匿名性」から起こる問題を助長させていることもあります。親も実際に「習うより慣れろ」の考えで、携帯電話で「プロフ」「ブログ」「学校裏サイト」などを自分で試し、子どものサイトや子どもの友達のサイトも確認して、適切な使い方や危険性について子どもと一緒に話し合い、親子でルールを作ることが大切ではないでしょうか。

●実社会での人とのつながりを大切にしたい

自分の好きな時間にメールをして返信をもらう、掲示板に書き込んで共通の話題で盛り上がるなど、子どもたちはクールに見えても人とのつながりを求めています。しかし、ネット上だけでなく、現実に親や家族以外の地域の子どもや大人とつながることはもっと大事です。私たち大人から近所の子どもたちに「おはよう！」「こんにちは！」と声をかけることから始めたいものです。近藤先生は自分の子どもの友達を家に呼んで話をしたり、一緒にハイキングに行ったりしたそうです。自分も小学生の頃、近所の方に釣りや山登りに連れて行っていただいたことを思い出します。いくらインターネットが普及しても、これからの時代はより一層人と人とのふれ合い、心と心のつながりが大切な時代だと思います。実際、3月11日の震災時には携帯電話が使えず困った人も多かったと思います。近隣の人と顔見知りになることで、いざというときにも協力しやすいのではないかと思います。

インターネット社会を批判するのは簡単ですが、批判していても何も変わりません。本の中にもありましたが、ネット社会を正面から受け入れて、バーチャルな社会よりも現実の社会の方が遥かに素晴らしいと自信を持って子どもたちに伝えることができるように、私たち大人がまずは家庭、地域からがんばらなければならないと感じました。

近藤先生には2002年当時、旭区南希望が丘中学校の校長先生の時に部活動のことで大変お世話になりました。また地域の行事に積極的に参加され、生徒指導にも熱心に取り組まれていたことも思い出されます。近藤先生のような情熱を持った先生が多くなれば横浜の教育ももっと良くなると思います。

最後に私が印象に残った本の中の一節を、長くなりますがそのままご紹介させていただきます。「モバイル社会に依存する子どもたちを導くとすれば、まずは、保護者や大人たちが自分が社会の「顧客」であるかのような「お客様意識」という錯覚を捨て、公共を支える一員としての本来のスタンスに立ち返る必要があります。そして、大人自らがしっかりと公共的役割を果たし、協働し合う社会関係を築く努力をしていくことで、大人たちは本来的な「育てる力」を取り戻し、子育ては生まれ変わり、地域の教育力は回復するのです。遠回りのように思えるこの道筋が、実は子育てを誤らせない基本的スタンスなのです。」

私も先生に負けず努力しなければならないと思いました。皆さまのご意見もお待ちしています。

横浜市議員 古川なおき

※1モバイル…携帯電話機、携帯できる、移動できる、動きやすい、といった意味の英単語。ITの世界では携帯可能な情報・通信機器や移動体通信システム、また、それらのために開発されたソフトウェアなどの名称の一部に使われることが多い。
※2プロフ…主に携帯電話で利用されている、自分のプロフィールのページを作成できるサービス。または、そのようなサービスを提供しているWebサイトのこと。
※3ブログ…個人や数人のグループで運営され、日々更新される日記的なWebサイトの総称。（※1～3いずれもIT用語辞典 e-word より）



みんなで健康増進！& 市政について気軽に語り合いませんか？
政務調査活動の一環として「市民の皆様のご意見を」直接うかがう！

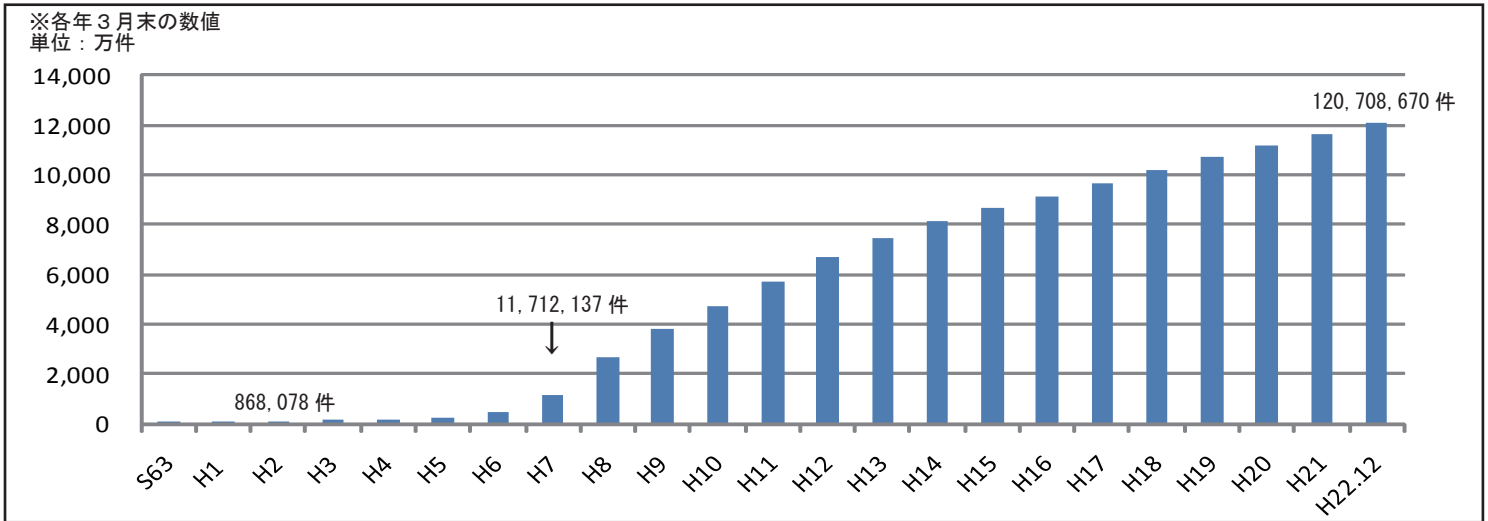
朝ウォーキング

8月はお休みします。9月の日程は後日掲載します。
お急ぎのかたは古川事務所へお問い合わせください。

※参加される方は、
当日直接、集合場所にお集まりください。



【表① 携帯電話契約数の推移（総務省「携帯電話・PHS 加入契約数の推移」）】



熱中症に注意しましょう！

<横浜市HPより抜粋>

熱中症ってどんな病気？

…暑さや熱によって体の中の水分や塩分が失われたり、体温が上昇したりすることで起きる障害のことです。

どんな症状がでるの？

- ①めまいや失神
- ②足や腕の筋肉に痛みを伴ったけいれん
- ③全身がだるくなる
- ④吐き気、などの症状が起きます。

※重症になると、意識障害(応答が鈍い、言動がおかしいなど)を伴い、体温が急上昇します。
体温が42度以上になると、細胞が壊れ、死に至ります。

熱中症になったら？

- 1 意識障害(意識がない・もうろうとしている)があれば、すぐに救急車を要請しましょう。体を冷やし熱を下げるのが急務です。首の横やわきの下、足の付け根など太い血管のある部分を氷や濡れたタオルをあてて冷やします。
- 2 意識がしっかりしている場合は
 - ①涼しく、風通しのよい場所に仰向けで寝かせ、衣服をゆるめます。また、脱水状態になっていますので、薄い食塩水を与えてください。スポーツドリンクでも代用できます。
 - ②吐き気がある場合は、吐いた物が喉に詰まらないように、回復体位を取らせましょう。



<回復体位>
横向けに寝て、頭をやや後ろに反らせ、できるだけ気道を広げた状態に保つ。膝は軽く曲げ、下側の腕は体前方に投げ出し上側の腕でつかえ棒をする要領で横向け寝状態を支える。

熱中症の予防方法は？

- 1 塩分入りの水分をこまめに補給すること。(スポーツドリンクが便利です。)
- 2 気分が悪くなったら、休息をとる。
- 3 熱中症は屋外で運動中になるというイメージがありますが、屋内にいる高齢者の方もよくかかります。激しい運動をせず、大量の汗をかいていなくて、室内であっても、暑い、風通しの悪い室内では熱中症になりやすいのです。風通しをよくし、室温管理を心がけましょう。
- 4 車内への幼児の置き去りや飲酒後のサウナ、運動部などでの水分摂取制限などは、熱中症になる危険性が高いので絶対にやめましょう。

近藤先生著書のご紹介

「モバイル社会を生きる子どもたち」
～「ケータイ」世代の教育と子育て～
近藤昭一著
時事通信社より出版 ¥2000円＋税

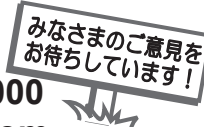
古川なおきプロフィール

県立希望ヶ丘高校・明治大学 卒業/明治大学公共政策大学院 修了
横浜銀行勤務後、衆議院議員秘書
平成7年4月 横浜市議員初当選(26才最年少)
現在 平成23年 市会運営委員会 委員長 / 水道・交通委員会
自民党横浜市議員団所属/横浜市会FCキャプテン
希望ヶ丘高校同窓会桜蔭会 評議員
旭区サッカー協会顧問/旭区スポーツダンス協会顧問
旭区卓球協会顧問



お気軽にご連絡ください。

FAX: 045-366-9700 / TEL: 391-4000
E-Mail: naoki@furukawa2002.com



古川なおき政務調査 事務所

〒241-0825 横浜市旭区中希望が丘199-1
URL: <http://www.furukawa2002.com>

